新型コロナウイルスについて

代表取締役会長　鈴木英介

いま世界はコロナウイルスで大騒ぎだ。

とうとう7月に予定していた東京オリンピックも延期された。

最初中国で始まった時は人ごとのように構えていた諸国も、今は国境封鎖や、外出禁止と、打って変って対応に大わらわだ。第二次世界大戦以来の国家非常時と宣言している国もある。2、3か月であっという間に世界中にウイルスは広がった。テレビを見ると世界地図でどんどん赤い感染国が増えた。すでに南極大陸以外のすべての大陸にウイルスは広がっている。

人類の歴史を見ると、過去に何回も感染症は世界中を襲った。しかし今回のような伝播の速さは初めての事だろう。いかに世界中で人の行き来が多いか、そして早いかという事がわかる。各国の対応にも関わらず、世界中への感染が防げなかったのは、世界が既にひとつのエリアに統合されている事の証だ。国際分業と国際貿易なくして、現在の世界経済を語る事はできない。

ウイルスと感染症

その発生については諸説ある。武漢のウイルス研究所から漏れたという話から、海鮮市場の生きたコウモリと言う話。ネズミに蛇、いや中国ではないとも。

１００年前のスペイン風邪も、本当はヨーロッパに派遣されたアメリカ軍からと言われている。当時は第一次世界大戦中で、アメリカ軍は軍事機密で情報が洩れなかったのに対し、スペインは戦争に参加していなかったのでスペインの感染が世界に伝わったため、スペイン風邪という名前になってしまったらしい。また世界戦争の場合、様々な国の人が衛生環境の悪いところで密に接する。そのため昔から戦争と感染症は付き物だ。クリミア戦争の時など、両陣営とも戦死者数より病死者数の方が多いとも言われている。明治日本初の海外出兵である、１８７４年の台湾出兵でも戦死者は殆どいなかったにもかかわらず、マラリアで５００人以上なくなっている。軍以外でも、大倉喜八郎率いる輜重部隊５００人の内、１２８人が病に倒れる。

（大倉喜八郎談１９１６）

異なる地域で異なる生活をしてきた人々が接するとき、必ず感染の問題は起ってきた。南北アメリカ大陸の先住民が激減したのも、旧大陸から持ち込まれた感染症の影響だ。そうでなければ数で勝るアメリカ人が、ああも簡単にヨーロッパ人に負ける事はなかっただろう。

現代では戦争でなくても、世界中の人が密に接している。クルーズ船に飛行機、電車にバス、屋形船からライブハウス、カラオケにスポーツジム、医療機関まで。結局ウイルスはどこから来たのかわからない。

はっきりしている事は、現代の感染症は、一地方の風土病では収まらないという事だ。特にウイルスは人と動物の境界も超え

る。動物には何でもないウイルスでも、人には致命的な作用をするものもあるし、その逆もある。

そもそもウイルスにとって、宿主を殺してしまうようなことになればウイルスも絶滅する。38億年の生命の歴史の中で、そうならないウイルスだけが今存在していると言える。なぜならウイルスは宿主、つまり寄生する細胞がなければ生きられないものだからだ。その辺の土の中や、空気中、道路や公園などでふらふらしているなどはないはずだ。そこが細菌と違うところだ。

ウイルスとは何か

それではウイルスとは何なのか。よく細菌と同じものと思っている人もいる。最近のテレビでも「コロナウイルスが2週間も生きていた」との発言もあった。そんな話を聞くと、「ちょっと待ってくれ」と言いたくなる。

最近「ウイルスは生きている」という本を出した人がいる。その人の話で、この題を聞くと「そんなのあたりまえでしょ」と言う人と、「随分大胆な題を付けましたね」という2つの反応があると言う。前者は普通の人。後者は生物学を多少学んだ人だそうだ。

そう、生物学の教科書ではウイルスは生きていないのだ。生きていないから殺せない。殺菌はあるが殺ウイルスはない。だから不活化と言う。細胞に入って増殖する能力を失ったという意味だ。生物の定義として「自己増殖するもの」という定義がある。ウイルスは自己増殖できず、他の細胞の中に入り、その細胞分裂とともに分裂し増殖する。他の力によって同じものができるウイルスが生物なら、結晶だって生物になるではないか。実はウイルスは結晶にもなるのだ。


サンゴ群体（動物）


水晶結晶（鉱物）

結論から言って、ウイルスの本体はＤＮＡ（デオキシリボ核酸）かＲＮＡ（リボ核酸）だ。つまり生物の遺伝子と同じもの。さまよう遺伝子と言ってもよい。先ほどの「2週間生きていた」との話は2週間後も細胞の中に入れると増殖したと言う事だろう。それがたんぱく質の衣を纏っている。そのたんぱく質が溶けると簡単に核酸は壊れてしまう。実に弱いものだ。細菌のように細胞膜さえない。おのれを守るものを持たない。それがどうしてそんなにやっかいかと言うと小さすぎる事。どこかの細胞の中に入ってしまっている事。つまり小さくて弱いが、隠れ上手ということか。

近年色々なことがわかってきている。大きさで細菌を超える、巨大ウイルスも発見された。宿主細胞内でしか増殖できない微小細菌もある。生命の概念さえ揺らいでいる。そんな時代のコロナ騒ぎだ。

疫病史で言えば１００年ぶり、5千万人死んだスペイン風邪以来のパンデミックだ。近年は細菌の感染症に代わって、ウイルスの感染症が多いように思う。

地球の生命進化にとって、何かが起こりつつあるように思う。